

名水の里に、 馥郁たる 銘酒生まれん

銘酒「七賢」のふるさと

第1回

「ブランドによらず、消費者が本当に美味しい日本酒に巡り合うための新しい基準」を目指すコンペティション「SAKE COMPETITION 2017」で Super Premium部門の1位と「ダイナースクラブ若手奨励賞」のダブル受賞に輝いた、山梨を代表する銘酒「七賢」しちけん。そのフラッグシップ酒「純米大吟醸 大中屋」おなかみやが生まれた名水の里を南アルプス・甲斐駒ヶ岳の麓、北杜市白州町に訪ねた。

写真・永田忠彦 文・高杉公秀

名水の里に銘醸蔵あり。
甲斐駒ヶ岳の伏流水で
日本酒を醸す唯一の酒蔵

「七賢」の精米歩合は、37%、47%、57%と「7」という数字に基づいている。そこには二百六十余年という長い歴史に培われてきた「七賢」という名前へのリスペクトと、数字に裏付けられた品質への自信が込められている。

Photographs by
Tadahiko NAGATA
Text by
Kimihide TAKASUGI

山田錦の交配種「夢山水」を
白州の名水で醸した、
馥郁たる香りの大吟醸



日本アルプス屈指の名峰・甲斐駒ヶ岳の名を冠した、滑らかな舌触りとスッキリした喉越しの味わいの七賢の純米大吟醸「甲斐駒」。特別な吟醸酵母を用いた繊細で優美な香りと旨みは、冷やしてワイングラスで。